

REC'D 04 JAN 2005

WIPO

PCT

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

| | | |
|---|------------------------------------|---------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 145372-081 | 今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/JP03/16036 | 国際出願日 (日.月.年) 15.12.2003 | 優先日 (日.月.年) 13.12.2002 |
| 国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ C07D513/04, 519/06, C07F9/6561 | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 明治製菓株式会社 | | |

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。
a ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。

☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）

☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- | | | |
|-------------------------------------|--------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第I欄 | 国際予備審査報告の基礎 |
| <input type="checkbox"/> | 第II欄 | 優先権 |
| <input type="checkbox"/> | 第III欄 | 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 |
| <input type="checkbox"/> | 第IV欄 | 発明の単一性の欠如 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第V欄 | PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 |
| <input type="checkbox"/> | 第VI欄 | ある種の引用文献 |
| <input type="checkbox"/> | 第VII欄 | 国際出願の不備 |
| <input type="checkbox"/> | 第VIII欄 | 国際出願に対する意見 |

| | | |
|---|------------------------------|---------|
| 国際予備審査の請求書を受理した日 14.06.2004 | 国際予備審査報告を作成した日 02.12.2004 | |
| 名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J.P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 谷尾 忍 | 4P 9550 |
| | 電話番号 03-3581-1101 内線 3491 | |

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、

付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | | |
|----------------|-------|--------------------------------|--------|
| 新規性 (N) | 請求の範囲 | 1-37 | 有 無 |
| | 請求の範囲 | | |
| 進歩性 (IS) | 請求の範囲 | 2, 11-20, 22-24, 31, 32, 34-36 | 有 無 |
| | 請求の範囲 | 1, 3-10, 21, 25-30, 33, 37 | |
| 産業上の利用可能性 (IA) | 請求の範囲 | 1-37 | 有 無 |
| | 請求の範囲 | | |

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献一覧

1. WO 02/42312 A1(明治製菓株式会社)2002.05.30
& AU 2002024088 A1 & EP 1336612 A1
2. WO 01/53305 A1(明治製菓株式会社)2001.07.26 & AU 2001027095 A1
3. JP 8-311071 A(明治製菓株式会社)1996.11.26(ファミリーなし)
4. WO 01/55155 A1(明治製菓株式会社)2001.08.02
& AU 2001028833 A1 & EP 1251134 A1 & US 2003/022881 A1

請求の範囲1、3-10、21、25-30、33及び37について

請求の範囲1、3-10、21、25-30、33及び37に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1、2に対して新規性を有するものの、文献1、2により進歩性を有しない。

文献1には、請求の範囲27記載の式(A)で表される化合物に相当するカルバペネム誘導体の製造方法に関して、カルバペネムの2位に置換基を導入する際、置換イミダゾ[5, 1-b]チアゾールのトリアルキルスズ化合物を用いる旨記載されている(特に、スキーム1-3、実施例2参照)。

文献2には、文献1記載の前記置換基と類似の置換イミダゾ[5, 1-b]チアゾール基を2位に有するカルバペネム誘導体の製造方法に関して、有機スズ化合物を用いることなく安全性および経済性の点で有利に製造するために、前記置換イミダゾ[5, 1-b]チアゾール基をグリニア試薬で処理したものと、カルバペネム基の前駆体であるアゼチジン誘導体とを反応させる旨記載されている(特に、第2、16頁、請求の範囲参照)。

ここで、製造工程の簡素化や収率の向上を目指して最適な反応条件などを選択することは当該技術分野の専門家であれば通常行うことであるから、文献2の上記記載に従い、請求の範囲27記載の式(A)で表される化合物を製造するに際して、文献1記載の製造方法に代えて、文献2記載の製造方法を用いてみることは容易である。

また、請求の範囲1、3-7及び33記載の化合物は、容易である前記製造方法の中間の製造工程において得られるものに過ぎない。

(補充欄へ続く)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 2、11-20、22-24、31、32及び34-36について

請求の範囲 2、11-20、22-24、31、32及び34-36に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1-4に対して新規性、進歩性を有する。

請求の範囲 2、11-20、22-24、31、32及び34-36に記載された発明は、文献1及び2に記載も示唆もされていない。

請求の範囲 31、32及び36に記載された発明は、文献3及び4に記載も示唆もされていない（特に、文献3の請求の範囲、段落【0022】-【0025】、及び、文献4の第52-54頁、合成例1参照）。